

桜咲く

2020.3.25

先日、娘の引っ越しで首都圏の方に行ってきた。新型コロナウイルス対策はどれほどのものかと思っただが、確かにマスクをしている人は多かった。だが、していない人もいる。さほど福島と変わらない感じであった。

娘の引っ越し先の近くに小学校があった。学校の前の通りには、それはそれほりっぱな桜の大木が並んでいた。すでに開花しており、三分咲きといったところであろうか。今日あたりは、満開を過ぎ、散り始めているかもしれない。そういえば今シーズンは一度もスタッドレスタイヤの威力を発揮することなく春を迎えた。

学校の脇は広い空き地になっていた。見てみると、これからマンションが建てられるらしい。桜の大木を眺めていたところ、マンション建設に伴い、マンションへの入り口を確保するために、大木を一本、切り倒す旨が記されてあった。ということは、その木にとっては、最後の桜の花となるわけである。どの木も、切ってしまうのを躊躇してしまいそうなりっぱな木である。たとえ一本でも惜しまれる。

例年よりもだいぶ早く桜前線が北上中である。福島市の開花予想日は数日後である。満開予想日は3月31日となっている。新学期が始まる前に桜が散ってしまう勢いである。これで新型コロナウイルスがなければいいのだが、もはや日本だけでなく世界的な問題となってしまった。加えて東京オリンピック、パラリンピック開催という大きな問題がのしかかっている。日本は、この問題の当事者である。昨日、1年程度延期という決断が下された。

ニュースを見ていると、次々と新しい用語が出てくる。パンデミック、クラスター、オーバーシュート、ロックダウンなどである。パンデミックは以前も使われていた。世界的な大流行を表す言葉だが、パンデミックと言われると、パニックに陥りそうで焦る。オーバーシュートは、今回初めて聞いた用語である。爆発的患者急増ということか。そしてロックダウンとは、簡単にいうと封鎖である。このロックダウンもかなりマイナスなイメージをもった言葉である。

日本人は横文字に弱いので、漢字で表記された場合に比べてカタカナ表記だと、何か特別のもののように感じてしまう。実際、今回の場合は、かなり特別なケースで非常事態、緊急事態であることは間違いない。

もし首都封鎖になればどうなるのか。もはや映画の世界に近づいている。娘が入学する大学の授業開始は、予想通り4月下旬となった。だが、東京がロックダウンとなれば話は変わってくる。日本の中枢が機能不全、機能停止に陥るかもしれない。“危機管理のさしすせそ”の「さ」は「最悪を想定して」である。事態は徐々に最悪に近づいている。今までオリンピック、パラリンピックが延期されたことは一度もない。危機管理で大切なことの一つは、「当事者意識」である。今は、日本の国民一人一人が当事者である。

来年の今頃は、ゆっくりと桜を愛でることができているだろうか。桜の大木は一本減ってしまっているだろうが、残された大木たちは、その木の分まできつと見事な花をつけるに違いない。今日は、後期選抜合格者発表の日である。受験生全員の手元に「桜咲く」の合格通知書が届くように。